

令和4年度 学校評価 小学校結果

令和5年3月末 学校教育課まとめ

No.	学校名	1 中期的目標	2 今年度重点目標	3 学校自己評価結果				4 学校関係者評価			表示以外 の評価分野			
				項目No.	分野	評価項目・取組内容	取組状況改善方策	評価項目	実施方法	総合				
												項目No.	分野	評価項目・取組内容
1	精道小学校	自ら学び 自ら歩む子の育成	(1)学習の基礎・基本を徹底し、自ら学び鍛える主体的な児童の育成 (2)命と人権を大切に作る心の教育の充実 (3)保護者や地域と連携した特色ある開かれた学校経営の推進	2	1	授業研究	1	〇子どもひとりひとりが生き生きと学び、自分の考えを持ち、学び合いを通して考えを深める授業の創造を目指す。そのために、児童の学習意欲を高めること、肯定的な教室の文化を作ることに留意する。	B	今年度は、外部講師を招聘しての授業研究会を行うことができた。また、学年団で教科をそろえて授業研究を行い、一人一授業の実践を行うことができた。 ・研究テーマである主体的対話的で深い学びを追求するため、各学年での「学びあい」の実践交流を継続して行ってきた。次年度も、主体的対話的で深い学びの研究を軸に、本校の課題にあった講師に指導を依頼する。	「学び合い」は、まず聴き合うことであるという理念のもと、さらに探求していく必要がある。主体的対話的で深い学びを追求していくため、研修で相互交流を図ってきたが、「深い学び」に課題があるので、さらなる研修を進めていく。	学校評価の実施について保護者向けには、今年度までWeb形式での調査を行った。	コロナ禍により、学校の様子を参観してもらうことが十分にはできなかった。コロナ禍の制限のある中で、学校行事など創意工夫しながら取り組むことができたことはよかった。今後安心・安全な学校で、一人一人の子どもたちの成長を大事に育んでいきたい。	人権教育の推進
2	宮川小学校	笑顔育てる～「共に生き 自ら学び 創造する子ども」の育成～	(1)地域力を活用し、学校情報発信(学校HP・学校だより等)による信頼関係構築 (2)基礎的・基本的な知識技能を習得し、タブレット端末等を学習ツールとして活用する学力向上の推進(関わり合い、学び合う子どもの育成) (3)いのちと人権を大切に作る心の教育の充実	2	1	学校運営	1	地域に信頼される学校づくり	B	学校HPや学校だよりにおいて、学校の様子を保護者や地域の方々に公開することができた。校外学習や宿泊行事など、普段と違う様子も見ていただけるよう工夫した。コロナ禍であったが、人数を制限するなどし参観日を実施して日ごろの学校の様子を見ていただけるよう工夫した。特に、コロナ禍で実施できていない宮ふれあい祭りの交流は、市内に誇れる宮川小学校の良き伝統の一つであると自負している。来年度は実施にむけ内容を精査しながら取り組んでいく。	地域の方が見守りに立っていたり、学校と連携してふれあいまつりなどを行っていたりすることを知らない保護者も多い。今後、学校から保護者への啓発を続けていく。ふれあい祭りの実施に向けて地域としても協力するというご意見もいただいた。	保護者アンケートの結果を集約・分析し、本年度の実践に生かそうとしている。 ・ミマモルアンケートによる回答と紙媒体での回答と保護者が都合の良い方を選べるようにしている。回答率は昨年に引き続き80%を超えており、来年度も続けていく。	コロナ禍の中、新しい生活様式でいるいろいろな工夫をし、子どもたちのために取り組んでいる様子ばかり嬉しく思う。給食の調理にこれほどの注意と手間をかけていることをしり感謝している。	学習指導
3	山手小学校	学校教育目標(「えがお☆かがやく」)の具現化に向けて、児童の学び合いの中で主体的な育成を図る。	(1)授業の質的改善を目指した授業研究、教材研究の充実 (2)人権教育の本質を踏まえた教育活動の展開 (3)温かい人間関係づくりを目指した生活指導 (4)地域との連携充実と教育力の活用	2	2	人権教育	2	7つの柱の教育の推進充実 ①差別解消 ②いじめ・心 ③特別支援教育 ④多文化共生 ⑤平和 ⑥ジェンダー平等 ⑦命	B	月1回の人権教育推進委員会の中で、7つの柱の推進充実について検討、検証していった。また、配慮を要する児童の交流を行い、児童の実態を共通理解することで指導を深めるようにした。昨年度できなかった親子人権参観や広島への修学旅行、平和学習や防災教育でのゲストティーチャーをお呼びしての講演など、コロナ禍前に行っていた実践を実施することもできた。	本年度は、対面という形で戦争や震災の体験談を聞くことができたことにはよかったと思う。これからは、子どもたちが戦争や平和、命についてしっかりと受け止め、考えることができ取り組むことを続けてほしい。来年度は、地域と連携した避難訓練の実施に向けて動いていきたい。	昨年度より回答率が4ポイント下がっている。児童数での回答なのか家庭数での回答なのかのしつかり周知するなど、回答率を高める工夫をしていただきたい。	コロナ禍のなか、幼稚園や中学校との連携も少しずつできるようになっている。これからも、子どもたちにとって、よりよい体験ができるよう、お願いしたい。昨年度と比べて地域との連携も増え、今後学校と地域が両輪になって、子どもたちを育てていきたい。	授業研究

No.	学校名	1 中期的目標	2 今年度重点目標	3 学校自己評価結果			4 学校関係者評価			表示以外の 評価分野			
				項目No.	分野	評価項目・取組内容	取組状況改善方針	評価項目	実施方法		総合		
												項目No.	分野
4	岩園小学校	学び合い 支え合い 高め合い ～未来を切り拓く生きる力の育成～	(1)互いに認め合い、尊重し、関わり合う良さを感じられる学級づくり (2)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり (3)生活規律・学習規律の徹底(そうじ・あいさつ・授業) (4)自己肯定感を高め、自分の夢や目標など将来について考えられる子の育成	2	1	互いに認め合い、尊重し、関わり合う良さを感じられる学級づくり	○友だちの良いところを認め合える学級をつくる。 ○子どもの自主的活動を支援し、その力を高める。 3)キャリア教育の推進	B	高学年で温かい学級づくりが出来たために、低・中学年の間に何を育て、どのような指導をするのか共有しておくことが大切である。そのため、人権教育や道徳教育において系統立てた指導をしっかりと行う必要がある。特別支援籍の児童や配慮が必要な児童に関わり方を教員が学ぶと共に、インクルーシブ教育について教師も児童も保護者も共通理解するための機会を拡充していく必要がある。	保護者・児童からのアンケートを集計・分析し、次年度の課題を示して教職員・保護者に周知している。教職員アンケートで部会ごとに分析および新たな方向性を示し、業務改善や校務分掌に関わるなどについても全体の場で共通理解している。	発達課題や家庭環境など様々な背景をもつ子どもが多くなっている。それらの児童に寄り添う生徒指導・学級・学校経営を今後も続けてほしい。また、あいさつなど基本的な生活習慣は大切にしてほしい。ボランティアなどを募り、地域に開かれた学校をより推進していくことで、教師の負担感も減る。家庭・学校・地域が密に連携して今後も取り組んでいく。子ども達の主体的な学びや自己決定の場面をできるだけ多くもてるような工夫が今後の社会を具えた上で大切になってくる。	子どもたちが主体的に取り組む授業づくり	
5	朝日ヶ丘小学校	「共に学び 支え合う子ども」	(1)教育の基礎・基本を大事にして、安心して、落ち着いて過ごせる学校にする。 (2)学び合い、支え合いを大切にできる学校をつくる。 (3)体験活動や読書を大切に、心豊かな子どもを育てる。	2	2	体験・読書活動の充実	○各学年の発達段階と課題に基づいた体験・読書活動がおこなわれているか。 ○地域の方、公共機関、専門機関の方などゲストティーチャーや保護者の教育力を活用しているか。	A	今年度は、更に来校いただいた方の学習が多かった。特に読書活動の取組に力を注ぎ、「カリキュラムマネジメント」に取り組みながら、教科を横断的・総合的に関連付けて、様々な体験・読書活動を実施することができた。PTAの協力、地域住民、専門機関の協力があがり、多くの方々に教育力を発揮していただくことができた。特に高学年において、多岐のゲストティーチャーの教育力を活用できた。また、芦屋市立図書館との連携により、本が子どもたちにとって、より身近なものになった。さらに継続していきたい。	保護者や地域、専門機関等の人々に体験活動のねらいや内容等について理解を求め、いきいき安全確保を図っていき、今後も地域や保護者、外部機関、専門機関と幅を広げながら教育力を活用していく。さらに、実施後の振り返りを行い、学校全体で共有していきながら、その後の生活や学びに生かしていく。児童の自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する能力を育てられる体験活動を実施していく。	昨年12月に保護者・児童・教職員に15項目のアンケートを実施した。保護者アンケートがWeb回答から文書に変更になった。保護者からはWeb回答の方が良かったというご意見があった多数あった。保護者の自由記述は、Webの方が書き込みが多かった。	学校の取り組みについては、保護者の評価はほぼ90%となっており理解されている。さらに丁寧な取り組みを進めてほしい。学習活動をはじめ、学校が落ち着いている。	学び合い 支え合い
6	潮見小学校	学び合い、支え合う 心豊かな子どもの育成	(1)豊かな人権教育を持ち、互いに認め合い、主体的に取り組む子どもの育成 (2)児童理解を深め、きめ細かな教育実践に取り組む学校教育活動の実施 (3)家庭、地域との連携を深め安全・安心な学校運営の実施	2	2	防災・安全教育	○水の事故防止に向けた命の教育 ○地震や津波に伴う避難行動 ○不審者対応等、命を守る行動	B	着衣水泳について、コロナ禍においても、しっかりと実施することができた。コロナ禍であっても命を守る避難訓練は、しっかりと目的を持ち、その意義を理解した上で適切な指導をしていく必要がある。防犯教室をするなど子ども達に知識としてしっかりと伝え、同時に臨機応変な対応が必要であることの指導ができた。	着衣水泳について、しっかりと実施することができた。コロナ禍であっても命を守る避難訓練は、しっかりと目的を持ち、その意義を理解した上で適切な指導をしていく必要がある。防犯教室をするなど子ども達に知識としてしっかりと伝え、同時に臨機応変な対応が必要であることの指導ができた。	教職員による学校評価、保護者による学校評価に加え、児童の振り返り、各行事ごとに実施した保護者からのアンケート調査と学校関係者評価委員会でも意見を聞いて評価した。	新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの方に来校して学校の様子を広く公開するところまではいかなかったが、ホームページで情報発信を行うことはできていた。感染対策を講じながら、引き続き、教育活動できるように、保護者・地域と連携しながら進めていく。	教育課程

No.	学校名	1	2	3				6	4	5	表示以外の 評価分野				
		中期的目標	今年度重点目標	学校自己評価結果				学校関係者評価							
				項目No.	分野	評価項目・取組内容	達成状況	取組状況改善方針	評価項目	実施方法		総合			
7	打出浜小学校	『豊かな心を持ち、自ら考え進んで実践しようとする心身ともに健康な子ども』の育成	(1)学校や地域の特性を生かし、つながりを意識した学校づくりの推進 (2)主体的な学びを意識した学習指導や教育活動の工夫	2	2	基礎基本の学力の定着及び自ら学ぶ意欲と能力を育む学習指導の工夫	2		○分かる授業のづくりの工夫 ○反復学習の継続 ○図書室の有効活用 ○教科担任制(5・6年)の実施 ○「チューター(算数4年)」の積極的な活用	B	○朝の時間も活用し、各学年・各教科の基本となる「話す・聞く・読む・書く・計算する」等の基礎の反復練習をした。 ○きめ細かな指導を心がけ、算数チューターの活用など、つまづきやすい内容について支援を丁寧に行った。 ○指導の工夫(タブレット等の活用)により、学習意欲の向上を図った。 ○家庭と連携した学習習慣の定着に継続して取り組む。	学校は、基礎基本の定着のため工夫をしていることは昨年度より良い評価が増加しているが、これからも、きめ細かな指導と、取り組みのまとめ、課題解決の研究継続が必要である。	・教職員による学校評価、保護者の学校評価、児童の振り返りを含めた自己評価、学校評議員評価を実施し、さらに、各行事毎に保護者アンケートを行う等、方法としては適切である。	コロナ禍のため、学校生活の様子などを十分に参観できなかったが、学校評議員会等での活動報告と学校便りなどから、学校の取り組みの様子はわかった。今後も子どもたちの健やかな成長を育んでいくことを大事に取り組んでほしい。	開かれた学校 特色ある学校づくり
8	浜風小学校	全教育課程を通して「自ら学び 共に生き 創造する子」の育成に努める。	(1)学び合う子の育成 (2)お互いに認め合い、共に生きようとする子の育成 (3)主体的に創り出し、活動できる子の育成	2	2	心の教育の充実	2		○児童の自己肯定感を高め、お互いを思いやることのできる取り組みを工夫する(ペア活動や学級での仲間作り)。 ○道徳を核とし、様々な場面において、児童一人一人の状況を把握し、児童が互いに支え合い、助け合っていく集団作りを目指し、個々の児童の心に響くようにすべての教師がチームとして連携して指導を推進する。	B	人権参観は多文化共生をテーマに実施し、自分も相手も大切にする心の耕しを推進していった。人権教育における6つの柱に関わる学習は継続して行い、心の教育の充実をはかった。相手のことを大切にすることを大切にする学級づくりやペア活動などの仲間づくりを進めた。いじめアンケート等の実態把握により、幅広く子どもたちの様子を知り、常に相手のことを考えた行動かどうかを子どもたちに声かけするよう努めた。日々の職員間の情報交換などの連携以外に、毎月の職員会議では特に配慮を要する児童について情報共有を行った。	教職員をはじめ、保護者・地域の大人が、共通する見方・考え方で子どもたちに接することが大切である。学校生活に保護者や地域の方が入ってくださる機会を増やすことができている。継続して、様々な児童について、実態把握や関わりを進めていきたい。	学校の状況を報告し、熟議しながらご意見をいただき、評価を行っている。	全般的に高い評価をいただいている。教員と保護者の評価の整合性を取るために、調査内容の見直しをした。コロナ禍ではあるが、学校の取組が保護者に一定程度以上の理解が得られていると思われる。ただ、少数の意見へも丁寧な対応をしていきたい。	学力の向上